



町長回誌 No.120

町長日誌の第120号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆様のご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

10月21日(月) AM10:30

ここ数日は秋晴れが続き、昨日夕方、北見からの出張帰りの時には真っ赤な夕焼けで、まるで空が燃えているようでした。予報通り今朝はどんよりと曇り今は、小雨が降っています。夜には峠などでは雪の予報も出ていて、季節は着実に冬の準備に入りました。この季節の海の恵みであります秋サケ漁は、スタートは良かったのですが、今のところ昨年を少し下回る漁模様です。オホーツク全体としては昨年並みなのですが、稚内～雄武までの北部と斜里～網走の南部が昨年を上回っていますが、中央部の沙留～常呂までは昨年を下回った水揚げとなっています。しかし、魚価が高い事から売上額は昨年をはるかに上回る状況です。さて、伊豆大島に大きな被害をもたらした台風26号が過ぎ去った先週末からは、今年もイカ漁が始まっているようで、夜には集魚灯をつけた船が何艘も出漁しています。大漁を願っています。

10月15日(火)

国保病院改築工事の安全祈願祭(地鎮祭)が施工業者主催で、建設地である国鉄跡地で行われました。町が発注者となる大規模な構築物の工事は、平成14年に建設した「きらり」以来の事で11年振りとなります。また、駐車場や3戸の医師住宅を含め18億円規模の事業も過去には、あまり例はありません。まさに町の一大事業です。これも10年間の財政再建に町民の皆様が協力を頂いたお蔭と考えます。また、この工事の本体建築では、町内の建築業3業者だけで構成する経常建設企業体(JV)が携わることになりましたし、機械設備や電気設備も町内業者が参加してくれました。今迄大規模工事の時は、常に町外の手が参加していましたので、この様にほとんどを町内の企業で施工すると言う事は、税金の還元と言う観点からも大変に有り難い事です。今年は、春から資材の高騰、労務賃金の引き上げ、専門技術者の不足があり建設工事予算の見直しが必要になりましたが、予定外の国・道からの補助金もありましたので、無事今日の安全祈願祭を迎えることが出来ました。年内の工事は、杭打ちのみですが、近隣の皆様には大きな音や車の出入りなどでご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解をお願いいたします。

10月20日(日)

今日は、興部中の学校祭、沙留中の文化祭が行われました。私は紋別での葬儀とその後北見での行事に出席することから、沙留中文化祭の開会式と和太鼓演奏だけの見学となりました。興部中の皆さん済みません！さて、沙留中の和太鼓演奏は、赴任してこられた大久保二三保教諭が11年前から生徒会役員や有志の生徒たちを指導され、沙留のお祭りやチャリティー演芸会、牛乳の里マラソン大会など様々なイベントに参加し、皆さんから大きな声援を受けています。実は、私は文化祭会場での演奏は初めて拝見しましたが、約30分間の長時間3曲、生徒たちのひた向きで一生懸命な演奏は感涙ものでした。特に、指導に当たられている大久保先生は、来年3月で定年と言う事もあり生徒会長の中野君を中心とした生徒たちの心のもった素晴らしい演奏が先生にプレゼントされたと思いました。大久保先生の11年間のご指導のお蔭で、沙留に素晴らしい「無形の文化財産」が誕生しました。ご指導いただきました大久保先生に厚く感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今回で、この日誌も120号となりました。ちょうど10年となりました。特にご高齢の方は、活気あふれる時代の興部を知っていて、今の過疎化を寂しく思うかもしれませんが、子供たちが真剣に太鼓に取組んだり、町の若者たちが新しいまちづくりとして「興恵グルメ」「街中マルシェ」等の企画を考え、高校生が25年前の開基百年の時に作られた「オー・コッペ・ブシ」の再生に取組んだり、色々な取り組みの芽が育ちつつあります。木材で栄えた時代は、確かに人口が多かったのですが、あのゴールドラッシュの様に只収奪の賑わいであったと思います。自らが種をまき育ててこそ、沙留中の和太鼓ではないですが「文化」が生まれてくるものだとは私は信じてまちづくりに取り組んでいます。ただし、時間がかかります。

風邪が流行っています。お気お付け下さい。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。